

2024 年 8 月 16 日

山陽小野田市議会

議 長 高松 秀樹 様

小野田 3929 C-202

樋口晋也

議会運営に関する陳情書

1、議会改革先進議会として山陽小野田市議会では、多くの他議会からの視察を受けているようですが、一定のルールを定めその受け入れを行なった際の議事録或いは概要を記録として残すことを要望します。

2、議会運営委員会で議会運営についての協議が行われる中、「議員に対してしっかりと説明すべきではないか」との意見に「委員長がいちいち説明しない。議員個人の問題である」との発言があり、その際に議長より「議会は教育の場ではない」とのお話がありました。

では議員研修会は何故実施されているのでしょうか。議会全体の底上げを行う事が目的であれば高度な議論や政治判断についての議員研修会だけでなく、基本的な考え方を学ぶ「研修会」があっても良いのではないのでしょうか。

「議員個人の問題」と「議員研修会」の題材の選択の境界線はどこにあるのでしょうか。

いくら高度な内容の研修会が行われたとしても、それを理解できない議員を、「個人の問題」として片付けてしまっては議会の発展は望むべくもありません。何故なら議会は合議制であり多数決により物事を決するからです。

上記により、議員研修会の内容についての再考と、開催回数の見直しを求めます。

以上



2024年8月23日

山陽小野田市議会
議長 高松 秀樹 様

小野田 3929 C-202
樋口晋也

陳情書説明書

陳情内容 1 について

山陽小野田市議会が、他議会の受け入れ時に何らかの記録を残すことを求める陳情内容を記しておりますが、その提出理由について2点ありますので申し添えます。

陳情理由

市議会の活動は市政同様後世に残っていくものです。

過去に発信したこと、今発信していること、これから発信していくこと、これらは時代と共に変化していくものです。

当市議会がその時にどのような発信をしたかは、とても貴重な資料となるものではないでしょうか。

その時々山陽小野田市議会が他の議会に何を発信したかを残していくことには大切な意味があると考えます。これが1点です。

2点目は、本陳情についてもっとも考えていただきたいことでマンパワー不足への配慮についてです。

今春、議会事務局の増員がありましたが、まだ十分でないことは承知しています。

この増員は事務局の皆さんが「踏ん張って」「頑張って」議会を支えるために努力した結果として実現したものだと思っております。

「鶏が先」か、「卵が先か」ではありませんが、本当に議会が成熟し事務局も共に汗をかく時には増員も自ずとついてくるものだと考えております。

議員と事務局との関係性をしっかりとご認識いただき、議会本来の役割を事務局への配慮によって見失う事がないようにとの思いからの提案です。議会の認識について改めて問うものです。

以上

